

Hassojitz

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち

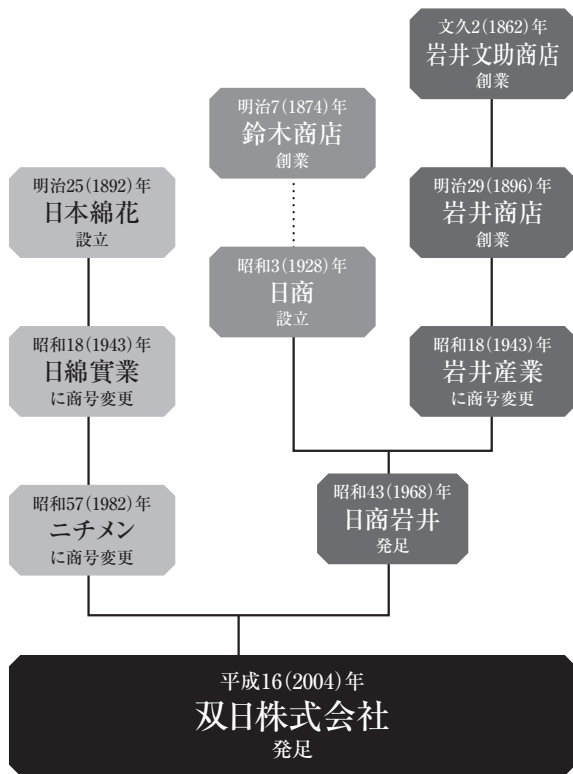
第4巻

衝
天



双日株式会社

双日の系譜



本作品は、可能な限り史実に基づいて作成していますが、構成上、マンガ特有の表現、描写を用いている部分があります。
また、登場人物の台詞は、基本的に各史料から引用していますが、一部推測により作成しています。

前巻までのあらまし

大正三（一九一四）年に勃発した
第一次世界大戦により
日本の産業界に
一大チャンスが到来する

世界一周視察を終え
冷静に国際情勢を見極めた
日本綿花の喜多又蔵は
日本の紡績業界に
大量の注文が来ることを予期し
世界各地の駐在員に
原料確保を指示

鈴木商店の金子直吉も
実需を正確に見極め
鉄の買いを指示
そして造船業に進出
さらに硬化油事業
ゴム事業などにも進出し
多角化を加速させた

岩井商店の岩井勝次郎は
セルロイドの将来性に着目し
新たなセルロイド工場を
尼崎に岩井単独で新設
大戦により鉄板の
輸入が細ったことを機に
亜鉛鉄板工場の
国産化のため山口県徳山に
進出した





当初短期間で終結すると

予測された第一次大戦は長期化し終結まで四年の歳月を要することになる

この予想外の展開は日本の産業界を新たな高みに導くことになる

日本の貿易は伸長し貿易黒字国となる

紡績業界を原料、製成品輸出の両面で支える日本綿花

輸入品の国産化をさらに進める岩井商店

ロンドンでは

鈴木商店の高畑誠三が大活躍

そしてついに先進国と肩を並べ凌駕する瞬間を高畑が作り出す

双日源流の三社はここに絶頂期を迎える

sojitz

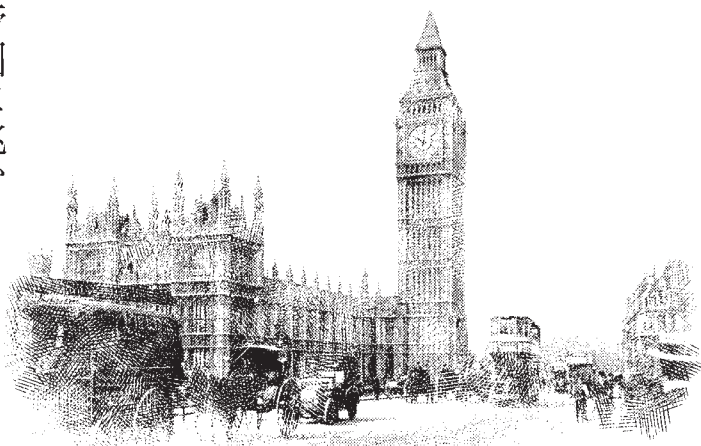
Hassojitz

発想 × **sojitz**

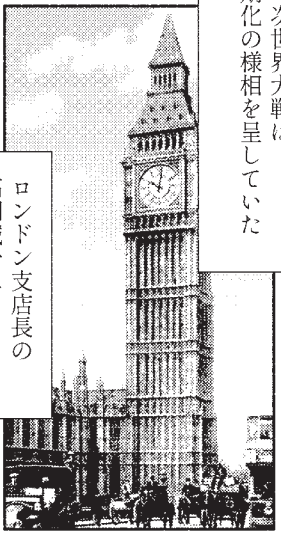
第1章

鈴木商店

カイゼル高畑、大英帝国に挑む



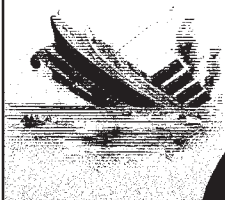
第一次世界大戦は
長期化の様相を呈していた



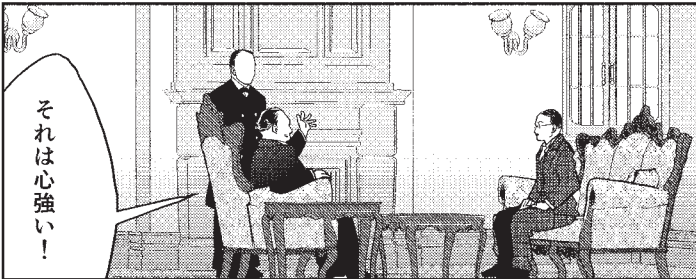
ロンドン支店長の
高畑誠一は
チャーチル海軍相に
呼び出された



戦争が長引き
物資が不足している
ついては
同盟国・日本に
供給をお願いしたい
ロンドン界限で
名を馳せている
鈴木商店なら
できるだろう



承知しました閣下
この鈴木商店が
鉄、船舶、食料など
なんでも供給
しましょう



それは心強い！

ただし条件があります
五〇万ポンドの手付金を
小切手でお願い
致したく……



なにっ!?
大英帝国を
信用できない
というのか





失礼ですが
大英帝国であっても
鈴木商店にとっては
数多くの取引先のひとつ
すなわち「一介の客」
に過ぎません
お受けいただけ
ないようでしたら
失礼します

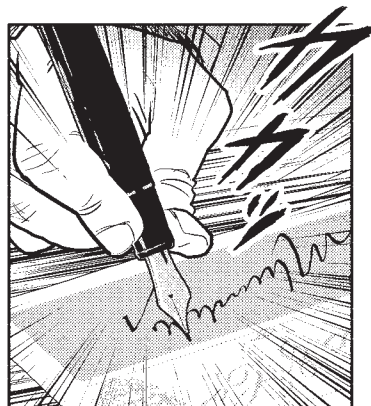
五〇万ポンド
……この
ジャップが

待て……
分かった
とにかく物資を
頼む……



公平なお取引
ありがとうございます

この鈴木商店
お客様との約束は
必ず守ります
日本はもはや野蠻と
いわれた小国では
ありませんので……



ぬぬ……
皇帝を商人にした
ような男だ
カイゼル高畑
……



言葉遣いには
お気を付けて下さいませ

この瞬間日本は
欧米列強と肩を並べ
そして凌駕した
近代化の結実を示す
一場面であった

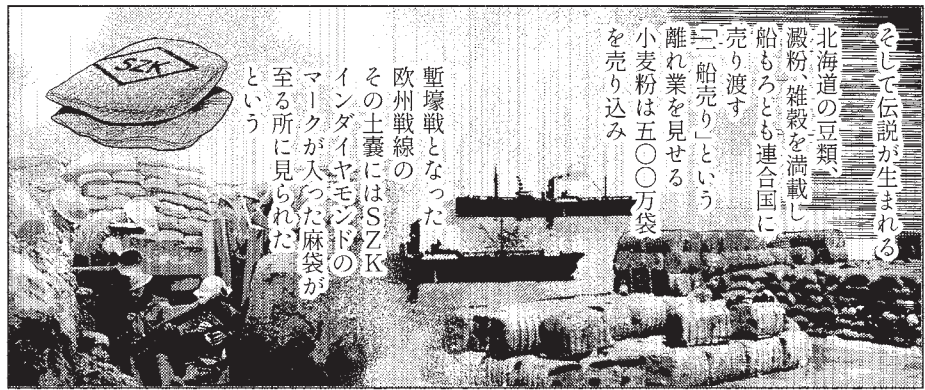
そして伝説が生まれる

北海道の豆類、
澱粉、雑穀を満載し
船もろとも連合国に
売り渡す

「船売り」という
離れ業を見せる
小麦粉は五〇〇万袋
を売り込み

塹壕戦となった

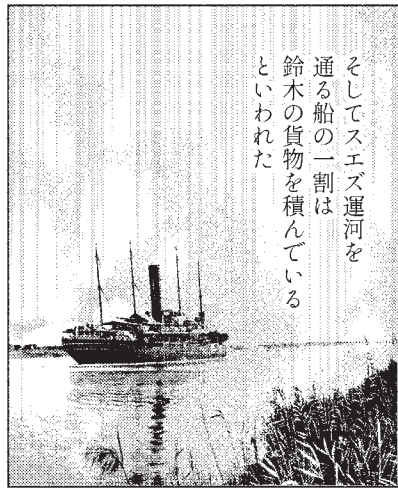
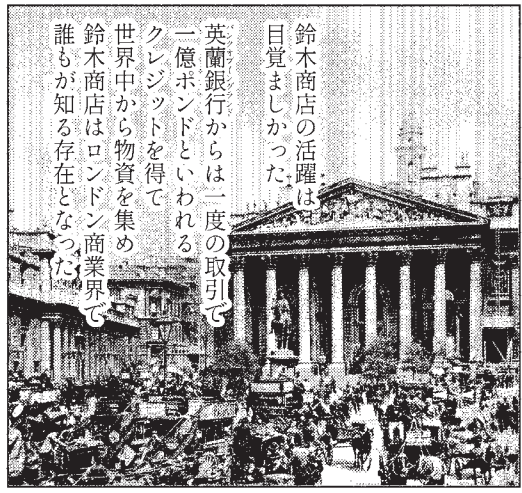
欧州戦線の
その土裏にはS.Z.K
インダイヤモンドの
マークが入った麻袋が
至る所に見られた
という



鈴木商店の活躍は
目覚ましかった

英蘭銀行からは二度の取引で
一億ポンドといわれる
クレジットを得て
世界中から物資を集め
鈴木商店はロンドン商業界で
誰もが知る存在となった

そしてスエズ運河を
通る船の割には
鈴木木貨物を積んでいる
といわれた



やあ高畑くん
日本人で初めて
バルチック海運取引所の
会員になったんだって

川崎造船所 社長
まつかた こうじろう
松方幸次郎





それにしても
高畑くんのところには
日本からよく
鈴木若者が来る
ものだね

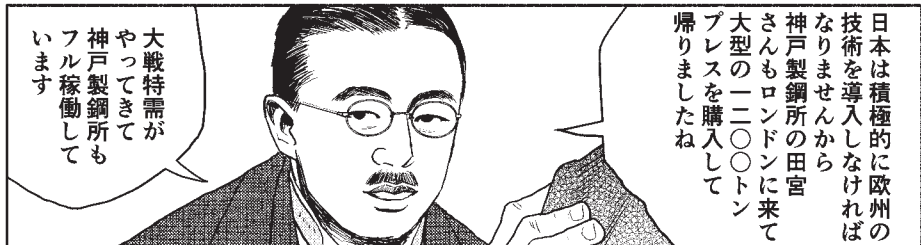


ええ
それより松方さんも
儲けられたそうで

金子さんの発案でね
同じ型のストックポートを
神戸港に大量に並べて
いたんだ

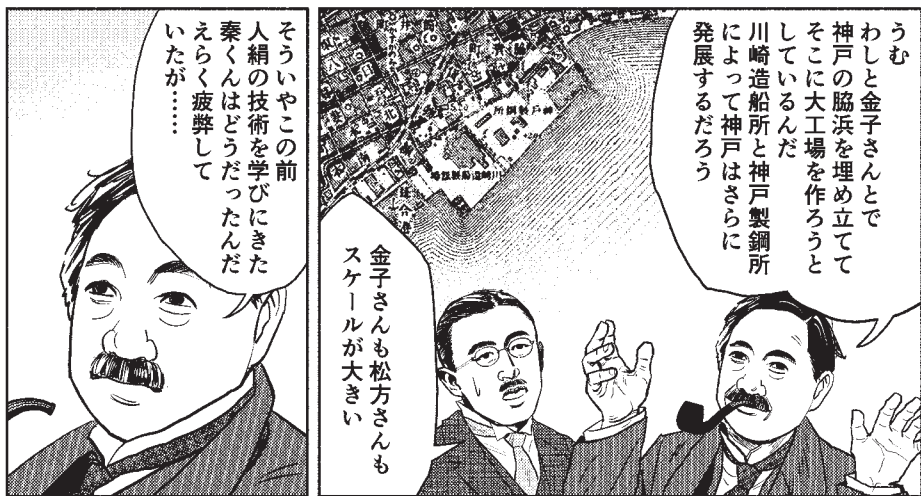
連合国は船舶に
相当困っていて
ずいぶん高値で買い
取ってくれたよ

松方は
鈴木商店の一室に
陣取っていた



日本は積極的に欧州の
技術を導入しなければ
なりませんから
神戸製鋼所の田宮
さんもロンドンに来て
大型の一二〇〇トン
プレスを購入して
帰りましたね

大戦特需が
やってきて
神戸製鋼所も
フル稼働して
います



うむ
わしと金子さんとで
神戸の脇浜を埋め立てて
そこに大工場を作ろうと
しているんだ
川崎造船所と神戸製鋼所
によって神戸はさらに
発展するだろう

金子さんも松方さんも
スケールが大きい

そういやこの前
人絹の技術を学びにきた
秦くんはどうだったんだ
えらく疲弊して
いたが……

秦くんですか……
実はこちらに
来る前に……

金子さん……
開発が上手くいかず
実はヴェイコースの
発明者で人絹の
第一人者である
クロスにアドバイスを
求めたんです
その返事がきたん
ですが……

ほーどれどれ

『君が送ってくれた
人絹見本は不出来である。
君に忠告する。
この仕事を日本で始める
ことは思いとまれ。
日本で人絹を製造する
ことは無謀である』

……がーはっはっ！
これはまた馬鹿にされた
もんやのう!!

なあに
西洋人にできて
我々にできんわけが
なからうが!

それで金子さんが
外務大臣に紹介状を
書いてもらって
ロシア、ヨーロッパ
各地を回って……
私もうまく話を
つないだのですが
まったく相手に
されず

それでも秦さんは
英国のコートルズの
工場の排水をくみ
取ったり



職工をご馳走して
工場の見取図を
書かせたり……

コラ起きろーっ
なんの為に
メシを奢った
と……

はっ！



これは



これが……
コートルズの
糸……!!

……ぐ……
う……う……

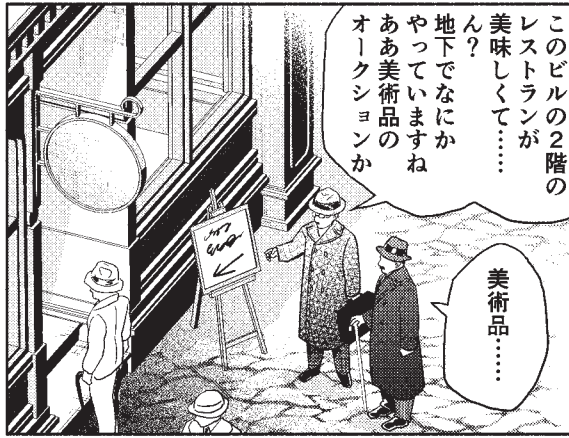


その後
フランス、米国と
渡ったものの
どこも鈴木商店との
提携も断られ
技術指導を受けられず
そのまま帰国した
そうです

かわいそうに
……

欧米は
秘密主義だからなあ
急激に成長する日本を
警戒しているんだろう





このビルの2階の
レストランが
美味しくて……
ん？
地下でなにか
やっていますね
ああ美術品の
オークションか

美術品……



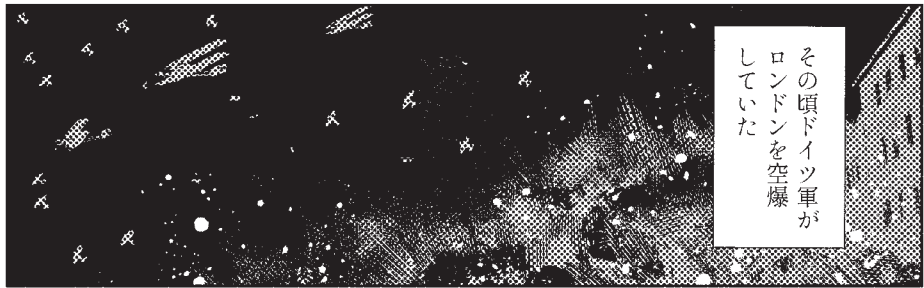
……おっと
インドのTATAと
会う約束だったな
川崎造船所と
神戸製鋼所向けの銑鉄は
12万トンの調達契約だ

高畑くん
上手くまとめてくれ
ランチを済ませて
から行こう



……
いっちょ
やってみるか
……

ふーむ



その頃ドイツ軍が
ロンドンを空爆
していた



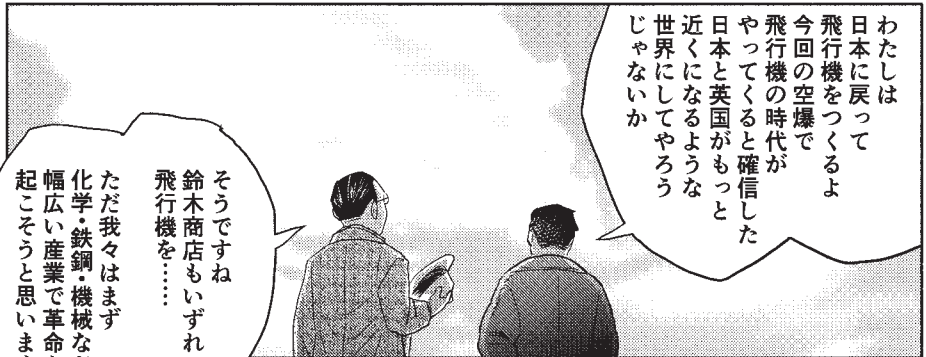
松方さん
皮肉なもので戦争に
よって技術革新が
どんどん進みますね
まさか航空機が戦争に
使われるなんて……



戦争は悲惨だよ
だがな高畑くん
我々は商人だ
生き残って
いざれ平和な世界の
ために技術を使おう
じゃないか

それが商人の使命
というものだろう

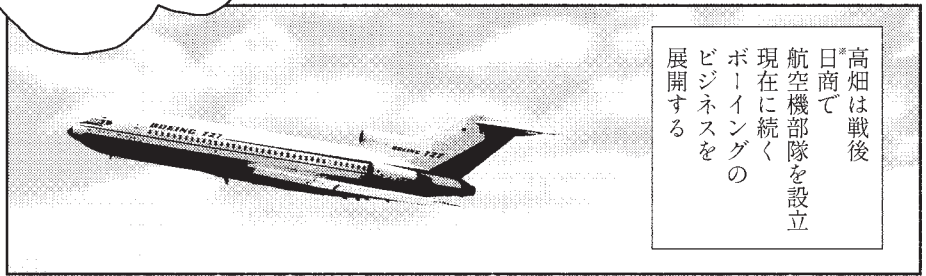
松方さん……



わたしは
日本に戻って
飛行機をつくるよ
今回の空爆で
飛行機の時代が
やってくるかと確信した
日本と英国がもっと
近くになるような
世界にしてやろう
じゃないか

そうですね
鈴木商店もいずれ
飛行機を……

ただ我々はまず
化学・鉄鋼・機械など
幅広い産業で革命を
起こそうと思えます



高畑は戦後
日商で
航空機部隊を設立
現在に続く
ボーイングの
ビジネスを
展開する

※ 日商は鈴木商店破綻後に高畑ら若手が中心となって設立された貿易中心の商社、現・双日。



一方の松方は
美術品の収集にも
乗り出した

高畑くん
西洋の美術品を
日本の若者にもっと
知ってほしいんだ
そのためには日本で
西洋美術を展示する
美術館が必要だ

松方さんの目利きなら
きつとよい品を集められる
のではないでしょう

うむっよーし
じゃあ支払いは
頼んだぞ！

はい？

こうして松方は
フランス・ドイツなどの
美術品収集を行った

資金は心配ない
鈴木商店に支払いを
立て替えてもらう

あの鈴木商店ですか
でしたら何の
問題ありません



とうわけだ
高畑くん
頼んだぞ

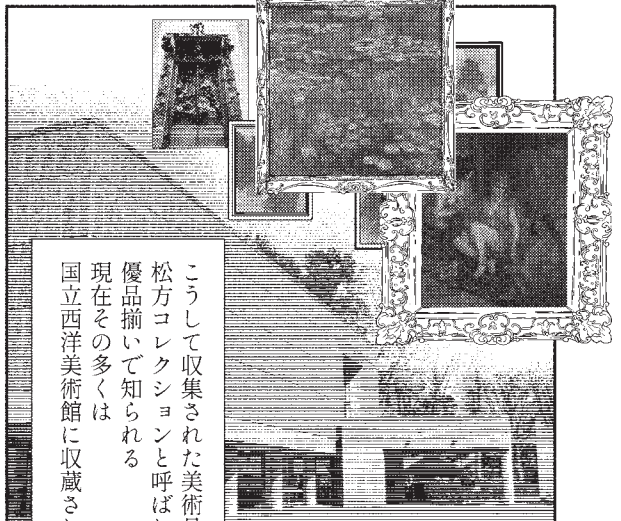
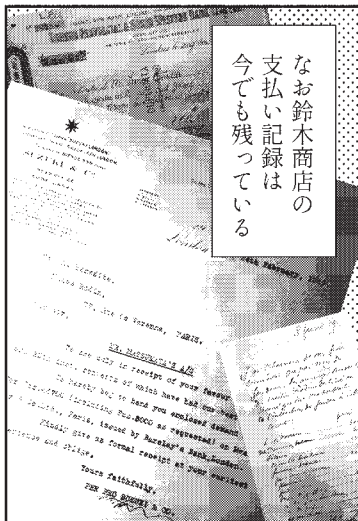
もう話を
まとめたん
ですか……

ええいっ
承知しました！



なお鈴木商店の
支払い記録は
今でも残っている

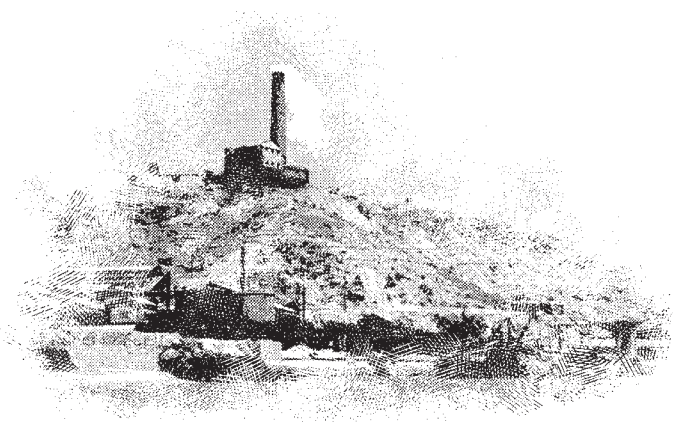
こうして収集された美術品は
松方コレクションと呼ばれ
優品揃いで知られる
現在その多くは
国立西洋美術館に収蔵される

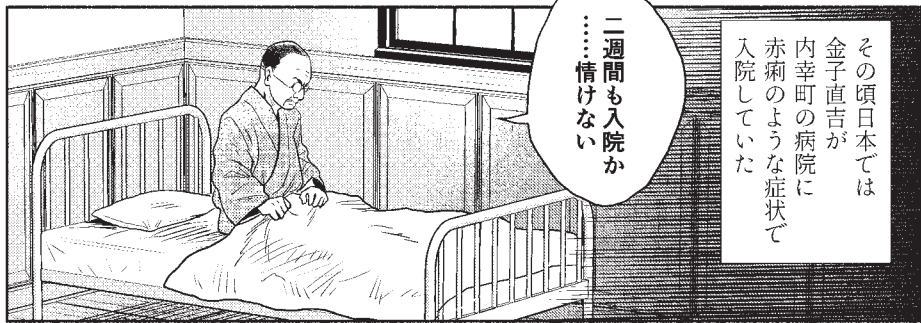


第2章

鈴木商店

五〇〇万発の砲弾と非鉄分野への進出





二週間も入院か
……情けない

その頃日本では
金子直吉が
内幸町の病院に
赤痢のような症状で
入院していた



ああ
要件は察しておる
網干のセルロイド工場が
爆薬製造工場に転換されたのと
同じ類の話じゃろう
岩井商店の岩井勝次郎さんがな
怒って新たなセルロイドの
工場をつくるらしいじや
ないか……



ロシアは連合国やし
後藤新平さんの
顔も立てなきゃならん
……よし、分かった

金子さん
ロシア政府の命を受けた
ブリーネル商会が
どうしても会いたいとい
言ってきています
日本政府からも
会ってやってほしいと

会われますか



五〇〇万発の砲弾を
製造してもらえないで
しょうか？

果たして
ブリーネル商会の注文は
金子直吉の読み通り
軍需物資であった





各国が輸出規制
しているいま
正攻法では無理だ
新たな発想が
必要になる



田宮 簡単に
あきらめるなよ

材料は亜鉛・鉛・銅・
錫でこれらの非鉄金属は
どの国でも大戦の影響で
輸出禁止になっていて
容易に手に入りません



これらの会社名は
そうやのう……
日本の金属
日本金属じゃ！

彦島 現在の彦島製錬

大里

徳山

日比 現在の日比製煉



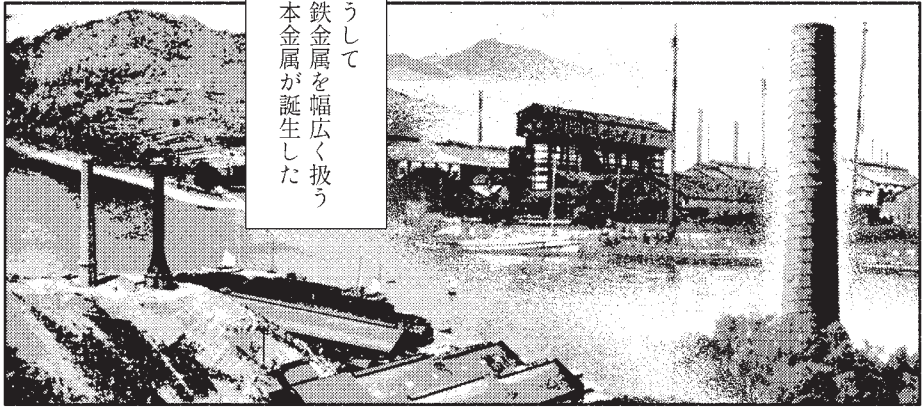
そうやな
中国の厘銭を集めろ！

中国の厘銭(古銭)には
銅が55% 亜鉛が35%
アンチモニー鉛が10%
含まれていた

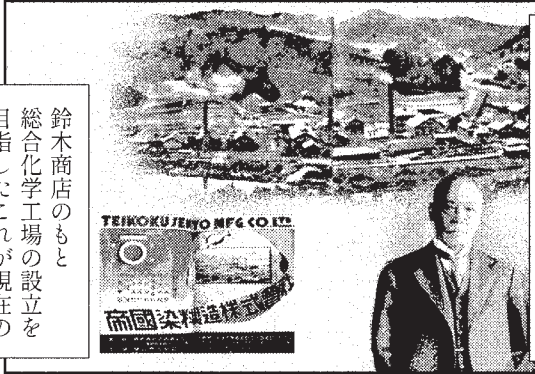
それから
山口の徳山、
九州・大里、あとは
関門海峡を挟んで
対岸の彦島にも
製錬所をつくるんや！

岡山の日比の
製錬所を
大きくしろ！

はい！



こうして
非鉄金属を幅広く扱う
日本金属が誕生した



鈴木商店のもと
総合化学工場の設立を
目指したこれが現在の
日本化学の源流である

鈴木商店は山口県厚狭に
山本条太郎と日本火薬製造を
設立し日本初のダイナマイト
製造がおこなわれた
また広島県福山に設立された
帝國染料製造に対しても
資金援助をおこない

この時期大戦を機に
民間に産業用火薬の
製造が許可された



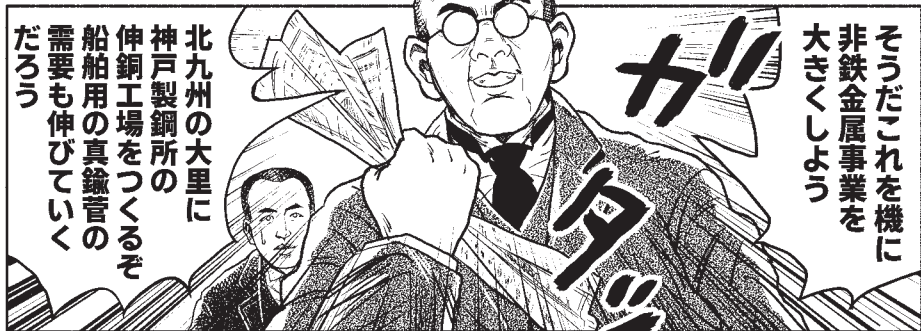
なあに
戦争に使われなくて
よかったじゃないか
調達した材料は
製錬して売ればいい

はい……



長期化していた
第一次大戦は意外な展開を
見せることとなる

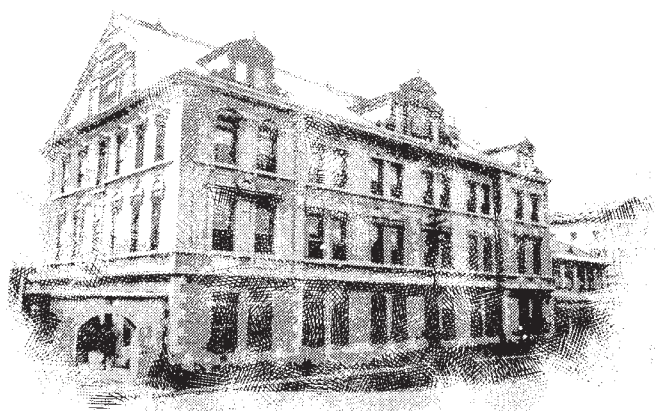
金子さん
ロシアで革命が起きました
これでは代金を支払って
もらえません



第3章

鈴木商店

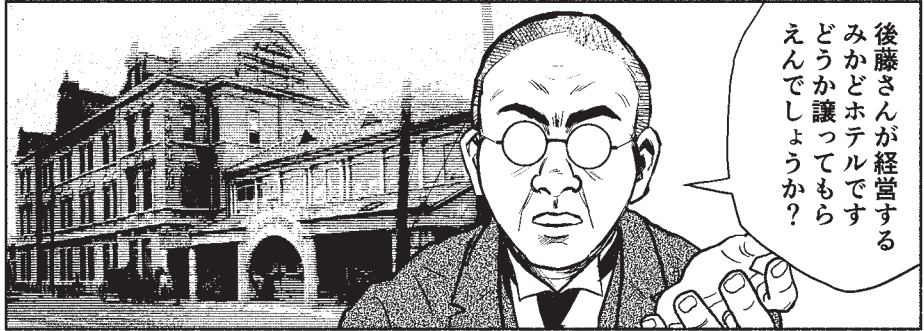
みかどホテル買収と新本店、
そして満鉄から大豆搾油事業買収



金子直吉は
後藤勝造に会う為
後藤回漕店を訪れた

神戸の街が
開けたのは
後藤さんが台湾と
結びついたり
西洋風文化を
広めたからだと思
っております

ははは
上手いこと
おっしゃる
それで本題は
なんですか？



いまや世界の鈴木商店
その発信基地になるのであれば
こんなうれしいことはありません

ありがたい！
鈴木商店が台湾に
進出できたのは
後藤新平さんを紹介
してくれたおかげ……
また借りが増え
ましたな

いやいや
実は後藤新平閣下とは
親族ではないんです
ただ同姓なので
可愛がってもらって
いるというだけで
金子さんは
最近閣下とは
どうですか？

閣下は台湾総督府
民政長官の後
満鉄総裁に就任
されたでしょう
それで次の
總裁にならんかと
言われてましてな
ただわしは神戸の
「白鼠」で充分や
それで断らせて
もらいました



※「白鼠」は主君に忠実な番頭の異名



はあ
満鉄総裁に推挙なんて
すごいことですわ
もう金子さんは
国を背負うお方や

結局
後藤新平さんの片腕で
台湾総督府の総務局長でも
あった中村是公さんが
二代目満鉄総裁になって
この前会うて話して
きましたわ



後藤閣下、中村是公
そして金子直吉……
台湾つながりやないですか
総裁を断っておいて
満州で商売をされる
おつもりでは？



がはは
その通りですわ

後藤さんは西洋風の
レストランを経営され
とるからわかると思うん
やけども食用油が
どんどん伸びると
思うんですわ



西洋の食べ物
ほとんど広まると
わしも思う
亀井堂の松井さんが
始めた瓦せんべいも
西洋菓子の応用
うちの西洋料理も
広まってます
食用油も伸びる
でしょうな

後藤新平さんが満鉄の
総裁やった頃から
大豆の搾油技術を開発
してるそうなんや
本音では是公さんも
開発したいが
満鉄の本業とは違う
誰も評価してくれん
無駄遣いやとさんざんの
言われようなんや



まさか
金子さん……



そうや
わしに売ってくれと
お願いしてらんですわ
鈴木は魚油事業で
油にはなじみがあります
で、日本は肥料(大豆粕)を
大量に輸入してます
そして
食料油は菜種ばかりや
これを大豆を満州から
内地にもってきて日本で
搾油する形に変え
一部は海外に輸出
残った粕は肥料にする
……と



それは合理的ですなあ
中村是公さんはなんて
いっています?

大連にある
満鉄の搾油工場を
鈴木が買い取ること
そして日本に
世界最大規模の
工場を三つつくる
ことが条件やと

なんと……その条件
呑まはるんですか?



もちろんですわ
まず神戸近くの鳴尾
そして横浜
あとは静岡の清水です

当初
鈴木商店製油部
といわれた工場群が
豊年製油(現・
J-オイルミルズ)
へと発展していく

特に清水港には
世界最大の
工場がつけられる
これが清水港最初の
大規模工場と
いわれている



清水市史には

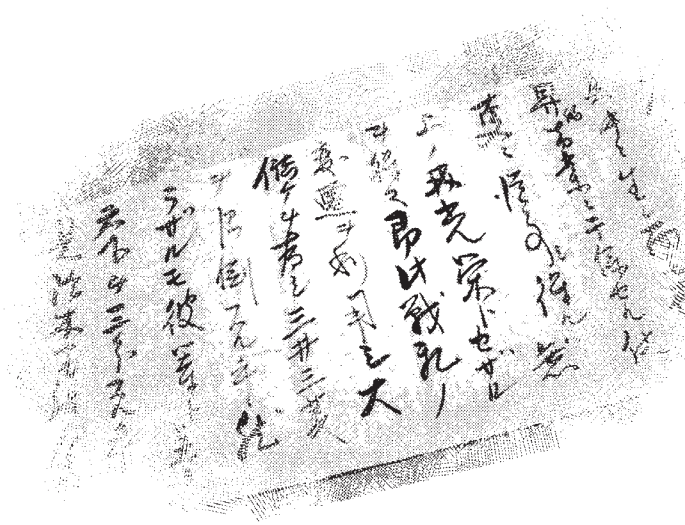
「清水貿易は茶輸出だけで埋立地は荒廃と化していたが、関西事業の霸王神戸の鈴木商店が進出するとなるや、死火であつた地元も動き、鈴木の腕に復活蘇生された。まさに魔人鈴木の怪力は大工場を立て、豆を絞る一豆粕を造る、数十の事務員と数百の職工眼前に聳え立つ工場は、清江士に力強い興業の精神を与え、やがて各種の大工業の振興は火を見るが如く明らかだ」との評価を与えた」

と鈴木商店の進出が
清水産業界の発展の
転機であつたと述べる

第4章

鈴木商店

天下三分の宣誓書、日本一へ

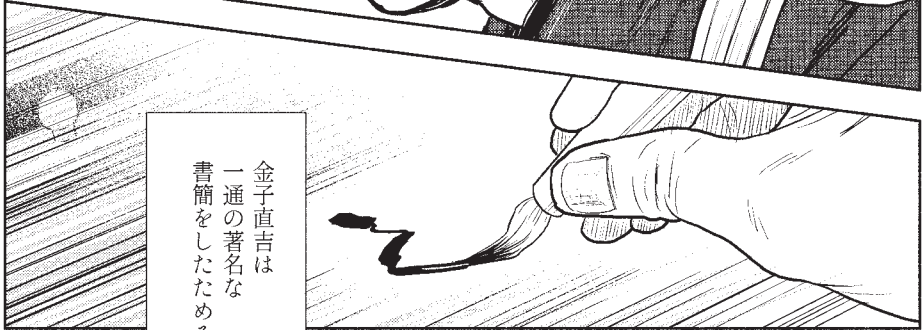




大正四(一九一五)年の
ことであつた



高畑……
そしてロンドンの皆に
わしの気持ちを
伝えるんじゃ……



金子直吉は
一通の著名な
書簡をしたためる

今当店の為し居る計画は凡て満点の成績にて進みつつ在り、

御互に商人として此の大乱の真中に生れ、

而も世界的商業に關係せる仕事に従事し得るは

無上の光榮とせざるを得ず即ち此戦乱の変遷を利用し

大儲けを為し三井三菱を圧倒する乎、

然らざるも彼等と並んで天下を三分する乎、

是鈴木商店全員の理想とする所也。

是が為め生命を五年や十年早くするも

縮小するも更に厭う所にあらず。

要は、成功如何に在りと考え日々奮戦罷在り

恐らくは独乙皇帝カイゼルと雖も

小生程働き居らざるべしと自任し居る所也。

ロンドンの諸君是に協力を切望す。

小生が須磨自宅に於て出勤前此書を認むるは、

日本海々戦に於ける東郷大将が彼の

「皇国の興廢此の一挙に在り」と信号したると

同一の心持也。

十一月一日

須磨自宅にて 金子直吉


高畑君

小林君

小川君

度々修るの得ん
上ノ我々栄トセザル
得乎、易ク我々ノ
妻遷テ判ト大
信テ有ト三井三菱
倒スル事也
吾等彼等ト
天下三分

この書簡は
「天下三分の宣誓書」
と呼ばれる



大正六(一九一七)年
鈴木商店の貿易年商は二五億四〇〇〇万円に達し
財閥を遙かに上回る

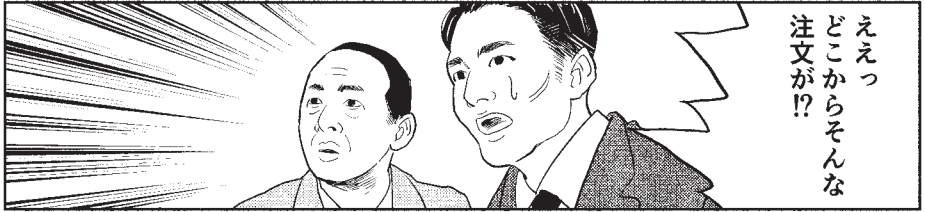
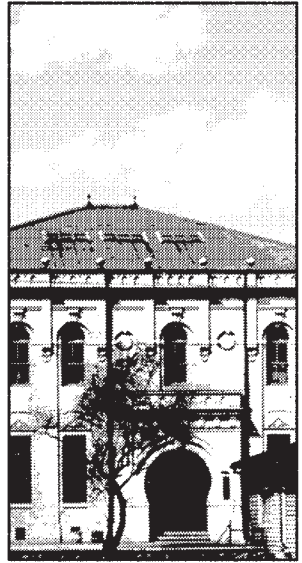
ここに鈴木商店は
日本一の総合商社となった
その売上規模は実に
GNPの一割にも相当した

第5章

日本綿花

ナポレオン喜多社長の誕生





しかし日清紡は明治四〇（一九〇七）年に設立されたばかりの会社。大戦後の混乱で相当大変なはずでは……

宮島さんは世界を飛び回った喜多さんや村田由蔵さんと親しくされていらっしゃるんだよ。大変な時にお二方が手を差し伸べようとしているということだな

村田さんは日本の綿花では最高権威の一人といわれている方ですよ

宮島さんはこれまた決断力のあるお方で、重役会でそんな大量の買付けできる商社などあるはずもないと反対された際には「日本綿花の喜多さんの内諾を得ている責任を自分で取る」と皆を説得したそう

とするとこれはやっぱり……

その後、綿花相場はみるみる上昇した

喜多さんこの度は本当にありがとうございます

いえない価格が上がるかどうかではないです。大戦で英国から全世界への輸出が細るそうになると日本にチャンスが訪れる。そのチャンスを逃さないために助言しただけです

それにしてもよい部下をお持ちですね。村田由蔵さんを私に預けていただけませんか？

ほう狙いは中国ですか。御社名の「日清」は日本と清国の交易による繁栄を願ってのもの。いずれ日本の紡績会社が中国に紡績工場を作る時代がきますよ

その時に彼がきっと役に立つでしょう

喜多はこのように日本に大量の注文が舞い込んでくることを予想し、紡績各社から大量の綿花の注文を得ていた

ホンマにそないに調達できるんか？

任せてください日本綿花の幹部に地球の裏側まで買いに行かせますそして綿製品を世界中に売ります

大戦中に大英帝国の市場をことごとく奪いましょう

大正六(一九一七年)第一次世界大戦の影響でニューヨーク綿花市場は南北戦争以来の高値を記録した

もつと綿花の調達網を広げるこのタイミングを逃すな日本が世界一の紡績大国にのし上がるには今しかない！インドから東、そして西へもや！

喜多社長っビルマ(現・ミャンマー)から綿花調達に日本で初めて成功しました！ラングーン(現・ヤンゴン)に出張所を設立します！

次はインドの西からの報告ですコンゴ、ソマリランド、スーダン、エチオピアなど東アフリカに社員を派遣し綿花の調達も開始しました！

よしっ今こそ日本綿花の開拓者精神をみせつけるんや！綿花の調達だけやないついで綿布も販売するんや

おーっ！

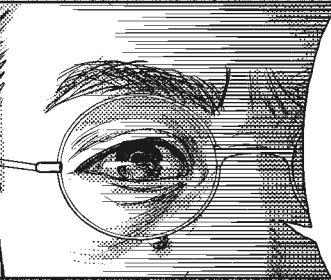
武藤山治は「紡績大合同論」を唱え合併を進め紡績王と呼ばれていた

喜多又蔵……この機を逃さず世界の綿花界を動かそうとしておる……

喜多は武藤山治からも信頼を得ていた

鐘淵紡績支配人 武藤山治

あの男、まるでナポレオンじゃ



第二次大戦中の大正三〇(一九一四)年、渋沢栄一が中心となって設立した大阪紡績と三重紡績が合併し、東洋紡が誕生

日本綿花の発起人が出資し経営に関与した日本紡績・摂津紡績・尼崎紡績が合流し、大正七(一九一八)年には大日本紡績(現・ユニチカ)となる

こうして東洋紡績、大日本紡績、鐘淵紡績からなる「三大紡績体制」が作られる

これら三社は日本の工業生産額の上位を占め、日本の紡績業界を牽引していく



大正六（一九一七）年
喜多又蔵は弱冠四〇歳にして
社長に就任した



二五年前の創立当時
日本の貿易額は
二億円に達しました
これなら
貿易を目的にした
会社を作っても
やっていけるだろう
との考えで日本綿花を
設立しました

ただ今や
日本綿花一社だけで
楽に二億円を貿易する
ようになりました

そしてこの年は
日本綿花創立
二五周年でもあった



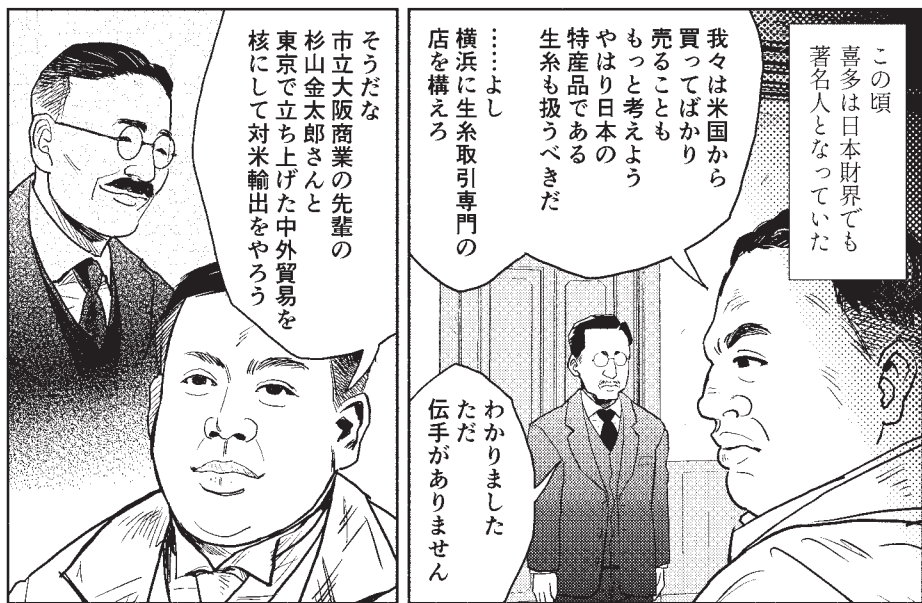
創立二五周年にあたり
これを記念して

普通配当二割、特別配当二割、
記念配当六割の一〇割配当を
実施いたします！

えっ？

一〇割配当
だって？！

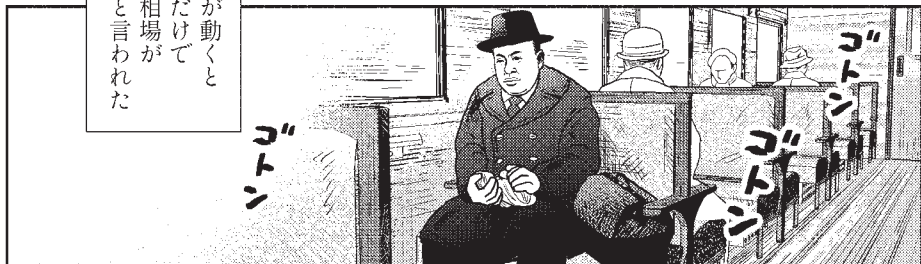






喜多又蔵が
上京する？
これは
日綿筋だぞ！

喜多が動く
それだけで
糸相場が
動くと
言われた



ゴトシ

ゴトシ

ゴトシ



わしらもいざ
人造絹糸を取り扱いたい
……いやできれば
製造したいもんや



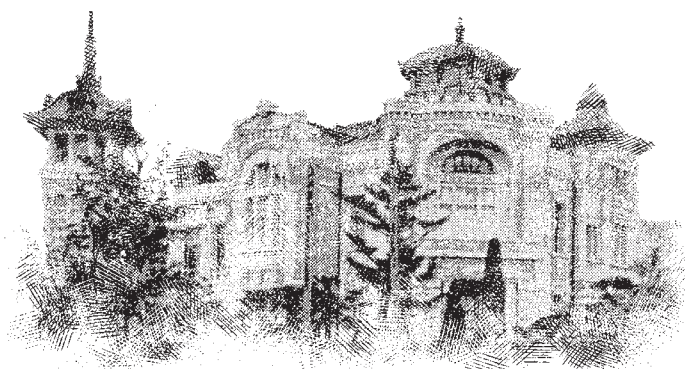
そういえば
鈴木商店の金子さんが
入れているらしい



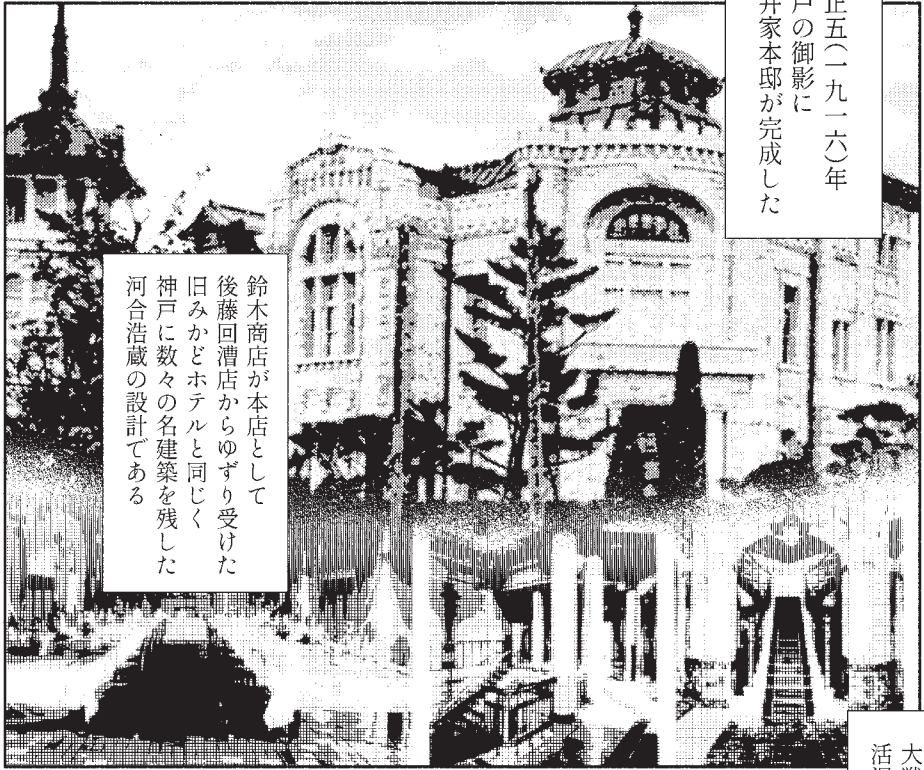
このち
日本綿花は
人絹を巡って
鈴木商店と対決
することになる

第6章

岩井・鈴木によるソーダの国産化と調達
岩井商店 関西ペイント設立



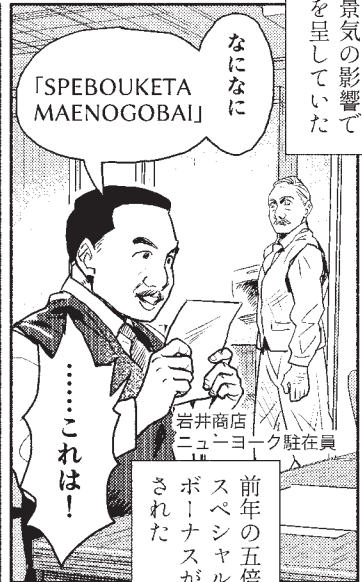
大正五(一九一六)年
神戸の御影に
岩井家本邸が完成した



鈴木商店が本店として
後藤回漕店からゆずり受けた
旧みかどホテルと同じく
神戸に数々の名建築を残した
河合浩蔵の設計である

※昭和20年5月17日、6月5日の空襲で全焼

岩井商店も
大戦景気の影響で
活況を呈していた

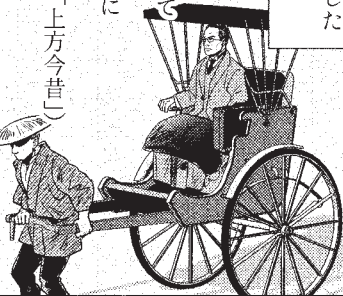


岩井勝次郎が居を移した
影響は財界に及んだ

「大正の初めころに、
岩井勝次郎さんが住吉に
移りすんだのを初めとして
大阪の富豪がみんな
住吉近辺に移りすむようにな
ってしまった。」

(朝日麦酒社長・山本為三「上方今昔」)

「毎朝人力車で国鉄の住吉駅まで行き、
大阪の岩井本社へ通う。
その姿が見えないときは、
駅長が列車を停めて勝次郎の到着を待つ。」
(関西ペイント発行「創業者岩井勝次郎」)

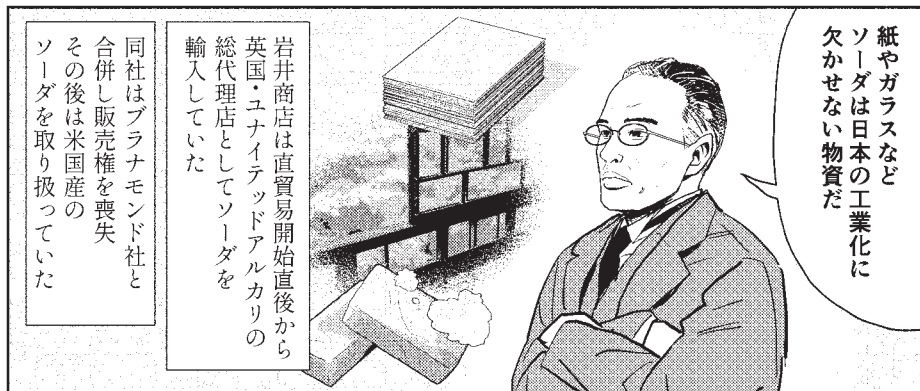




神戸の岩井本邸と
大阪の本店を行き来する
勝次郎が頻繁に下車したのは
神崎駅であった

岩井商店の大阪繊維工業
(現・ダイセル神崎工場)が
経営するセルロイド工場
そして隣に岩井化学実験工場
を設けた

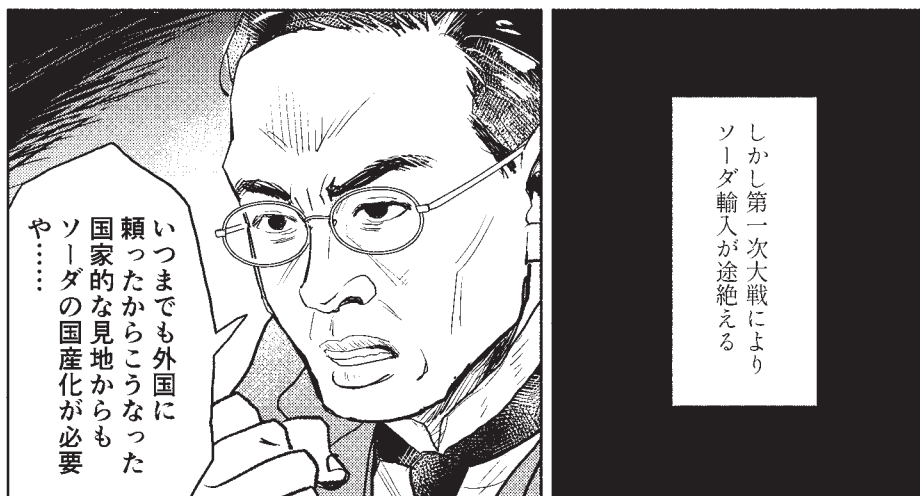
岩井化学実験工場では
工業化に必要なアルカリソーダの
国産化のための研究を行った



紙やガラスなど
ソーダは日本の工業化に
欠かせない物資だ

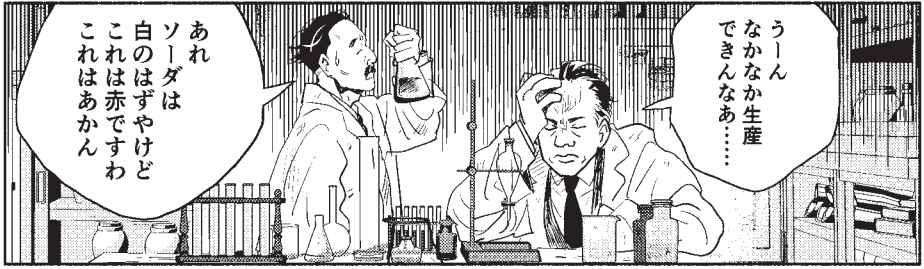
岩井商店は直貿易開始直後から
英国・ユナイテッドアルカリの
総代理店としてソーダを
輸入していた

同社はブランモンド社と
合併し販売権を喪失
その後は米国産の
ソーダを取り扱っていた



いつまでも外国に
頼ったからこうなった
国家的な見地からも
ソーダの国産化が必要
や……

しかし第一次大戦により
ソーダ輸入が途絶える



あれ
ソーダは
白のはずやけど
これは赤ですわ
これはあかん

うーん
なかなか生産
できんなあ……



そこにコロンビア大学で
自費でソーダ製造の研究を
行っていた岩瀬徳三郎が
視察に訪れる

ふむふむ……
根本的に間違っています
ソーダ工業は内陸ではなく
海岸に近いところがよろしい

分かった
大阪鉄板分工場がある
徳山に工場を作ろう



しかし
巨額の設備投資を要する
ソーダ事業は困難を伴い
岩井商店の屋台骨を揺るがす
岩井勝次郎命がけの事業と
なった……

大正七（一九一八）年
日本曹達工業（現・トクヤマ）
が設立される





常に事業は艱難になり
安逸に敗る

鈴木商店の金子直吉は
農商務大臣・仲小路廉に
呼び出されていた

ソーダの輸入が止まると
ガラス・製紙その他
百般の工業が一大障害を受ける
中には工場を休まなければ
ならないものも出てくる
かも知れない

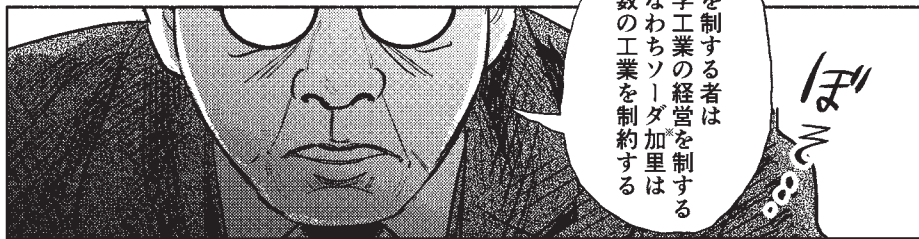
仰るとおり
そうなるでしょうな

であればソーダを
国産化するほかない
三菱の仕事で
九州にひとつ(旭硝子)
大阪の岩井の仕事で
周防の徳山にひとつ
工場があるがどうも
成功していない

ソーダは難しい
ようすな……

しかし金子さんなら
なんとかできるのでは？
政府としても
ソーダの国産化は
重要だと考えている

……



塩を制する者は
化学工業の経営を制する
すなわちソーダ加里は
多数の工業を制約する

ほ
お

※ 加里：炭酸カリウム(ガラス、医薬品、肥料など幅広い分野で使用)



むむっ？

鈴木商店は関東州と台湾で
塩業を営んでおります
岩井さんが元々組んでいた
ブラナーモンド(後ICI)と
鈴木商店の塩を使ってソーダ工場を
立ち上げてみましょう

この合併事業は
交渉こそ進んだが
第一次大戦の
終結が近づくと
ブラナーモンドが
態度を硬化させ
破談となった……



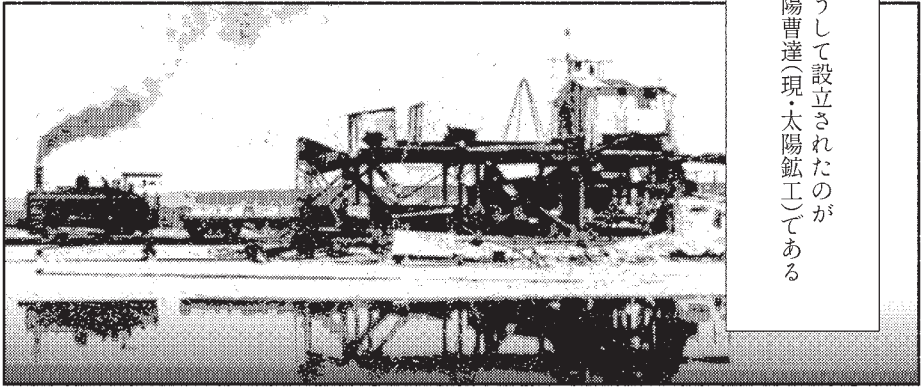
しかし思わぬところから
調達に成功する

ロンドンの
高畑からです！

高畑がやりよった！
アフリカ・ケニヤの東岸に
マガディという湖がある
そこには天然ソーダが仰山ある
英国にマガディソーダの
販売会社があってそこと
12年間の契約を
結んできよった!!

さすがは
高畑ですな！

こうして設立されたのが
太陽曹達（現・太陽鋳工）である



やあ田中くん
今日も欧米化学の
最先端技術の話
聞かせてくれ



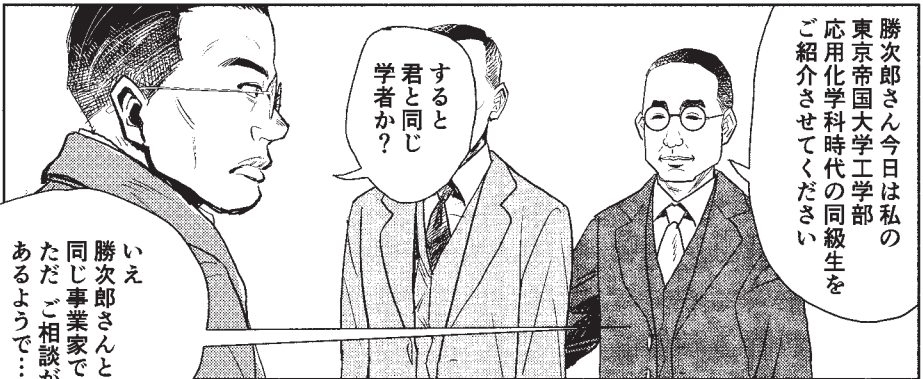
岩井勝次郎は邸宅に
さまざまな人を招き
話を聞く習慣があった



勝次郎さん今日は私の
東京帝国大学工学部
応用化学科時代の同級生を
ご紹介させていただきます

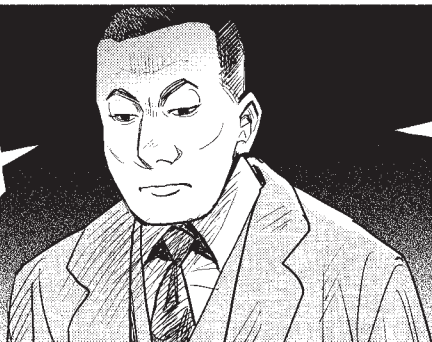
すると
君と同じ
学者か？

いえ
勝次郎さんと
同じ事業家です
ただご相談が
あるようで……



初めまして
玉水 弘と申します

日本ペイント
東亜ペイントをやめて
独立して西宮に
塗料の製造販売の
会社を立ち上げました
しかしどうにも
資金繰りが
厳しいのです……



なにっ
塗料の会社か！
岩井は英国の
ハバックス社から
輸入していたんだ
大戦で途絶えたんだ

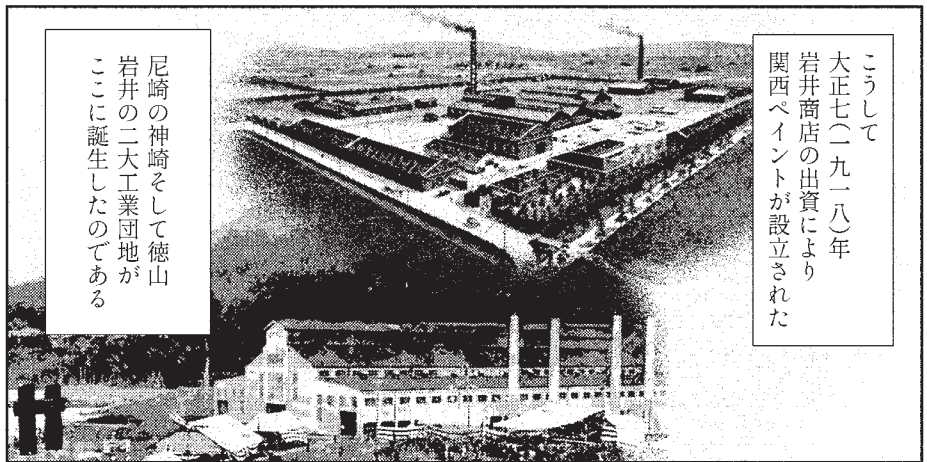
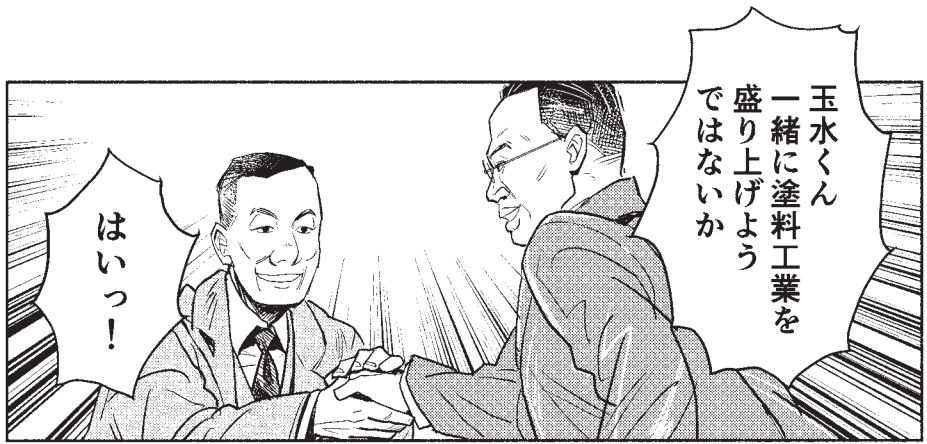


おお
それでは玉水がお役に
立ちましょ

塗料は繊維以外の
全ての工業に使われる
明治末期には一五〇〇トン
だった需要が大戦勃発後には
二万トンになっている

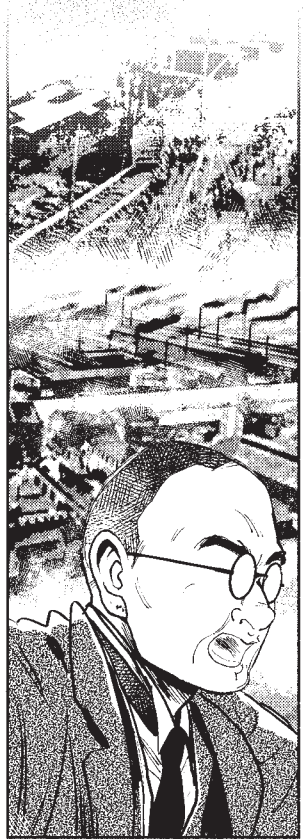
私は将来は海外にも輸出
したいと考えている





世界を
混乱に陥れた
第一次世界大戦
であったが

鈴木商店・岩井商店・日本綿花は
正確に情勢を読み
それぞれ新たな発想で
飛躍に成功したのであった



今も瀬戸内にそびえ立つ鈴木商店の煙突

鈴木商店は第一次大戦中、砲弾の受注をきっかけに非鉄金属事業を一気に拡大する。銅、亜鉛の製錬のため巨大な煙突が建てられた。実は瀬戸内に今でも鈴木商店時代の巨大な煙突が2本、悠々とそびえ立ち、建設以来、瀬戸内を通る船の目印にもなっていた。

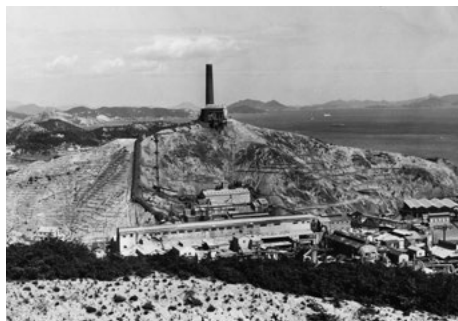
■ 太郎煙突の愛称で現存～岡山県

その一つが岡山県日比にある日本金属日比製錬所であった。明治36(1903)年に鈴木商店が買収し、銅の製錬のために、大正5(1916)年に日本金属と改称し、一気に事業を拡大した。現在は、三井金属鉱業グループの「日比製煉」として操業している。

鈴木商店当時に建てられた社屋はすでに取り壊されているが、太郎煙突の愛称で親しまれたこの巨大な煙突は、使用こそされていないが、現存している。



大正時代中期の日本金属日比製錬所



太郎煙突の愛称で親しまれた昭和30年頃の製錬所大煙突



現在の煙突(今は使用されていない)

今も瀬戸内にそびえ立つ鈴木商店の煙突

■ 工期7カ月の巨大煙突～山口県

もう一つは、現在の周南市にあった日本金属徳山製錬所(当初の社名は鈴木商店亜鉛製錬所)である。当時、亜鉛の製錬のために7カ月の歳月をかけて巨大な煙突を建設。その後、輸入による原料確保が難しくなり、大正9(1920)年には閉鎖される。しかし、この土地は、鈴木商店の帝国石油(後、旭石油)徳山製錬所として使用されることになる(鈴木商店破綻後、後の昭和シェル石油、現・出光興産に合流)。



72メートルの大煙突(稼働当時)



現在の姿

現在は、鈴木商店破綻後、南満州鉄道の子会社として設立された日本精蠟がこの土地を引き継いでいる。同社の設立を指揮したのは満鉄総裁の山本条太郎であった。同氏といえば、大正5(1916)年に鈴木商店の金子直吉とともに日本火薬製造(現在の日本化薬)を設立した人物である。

日本精蠟がこの場所を選んだのは、山本条太郎の金子直吉との縁もあったかもしれない。なお、日本精蠟の敷地内には、鈴木商店、そして帝国石油の境界杭が多数残っている。



日本精蠟の敷地内に残る鈴木商店と帝国石油の境界杭

☆☆☆

大正4(1915)年の11月1日には、金子直吉が「天下三分の宣誓書」をロンドン支店長の高畑誠一に送ったとされる。ほぼ同じ時期に建てられたこの2つの巨大な煙突は、鈴木商店の衝天の勢いを象徴するものといえるかもしれない。

双日は現在、全世界に400以上のグループ会社を有し、自動車・航空産業・交通プロジェクト、インフラ・ヘルスケア、金属・資源・リサイクル、化学、生活産業・アグリビジネス、リテール・コンシューマーサービスの7本部体制で、広範・多岐にわたる製品の製造・販売や輸出入、サービスの提供、各種事業投資などをグローバルに展開しています。



Hassojitz

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち
～第4巻 衝天～

2023年4月 第1刷発行

発行 双日株式会社

〒100-8691

東京都千代田区内幸町2-1-1

画 すずきんかりお

関連サイト https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/

無断複写・複製・転載を禁じます

本マンガ制作にあたっては、本巻に登場する多くの取引先企業、鈴木商店記念館、大阪企業家ミュージアムの皆様にご協力いただきました。

厚くお礼申し上げます。



New way, New value

WEBSITEで
公開中



本マンガは、双日のWebサイトに第1巻より順次掲載
https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/